

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設維持補修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	2	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	崎田 浩史			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	小学校のトイレ改修工事、第二中学校の外壁屋上改修工事の際に建具等附帯設備の改修を行う。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	小学校のトイレ改修工事、道野辺小学校の外壁屋上改修工事の際に建具等附帯設備の改修を行う。
②①に基づく取り組み結果	北部小・初富小・道野辺小・鎌ヶ谷小・南部小のトイレ改修工事、第二中校舎外壁屋上改修工事の際に老朽化した建具の改修を併せて行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校校舎・体育館	意図(対象をどうするのか)	学習環境の向上を図る
②事務事業の概要	老朽化した施設、設備等について、計画的に改修を行い、学習環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設の建設時期が一定期間に集中していることから、全体的に老朽化が進んでいる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	予定した事業を全て計画通りに完了し、学習環境の向上を図った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	校舎工事に関する生徒/全生徒	13	8	8	%	実施校生徒数/全生徒数
	ii	体育館工事に関する生徒/全生徒	0	0	0	%	実施校生徒数/全生徒数
	iii	その他工事に関する生徒/全生徒	13	25	36	%	実施校生徒数/全生徒数
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	231,536	632,826	金額(千円)	内容	804,466		
国支出金(千円)	38,909	39,277	193,424	第二中外壁屋上改修工事	53,655		
県支出金(千円)			90,450	道野辺小トイレ改修工事			
市債その他(千円)	166,000	330,900	69,941	初富小トイレ改修工事	666,700		
一般財源(千円)	26,627	262,649	52,272	南部小トイレ改修工事	84,111		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	施設の老朽化に伴い、事業の進捗ペースを速める必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	施設の老朽化に伴い、改修ペースを前倒しする必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	第二中校舎外壁・屋上防水改修工事、道野辺小トイレ改修	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	計画どおり実施した。その他トイレ改修工事の設計	1,015,849	1,015,849	当初	283,585	632,826	H29からの繰越	280,060
				H29⇒30繰越	460,113			
③達成状況	未完了			補正	272,151		現年分	352,766
④未完了・非着手の理由	国の補正予算に伴い、3月補正予算で追加した東部小・西部小・北部小・初富小トイレ改修工事を繰越した為。	令和元年度への繰越額(単位:千円)						272,151

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設楽器更新事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	3	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくれます	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	崎田 浩史			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	無し	③令和元年度に取組む改革・改善内容	元年度は、小学校9校の楽器更新を行うとともに、全小中学校のグランドピアノについて、リース方式(6年間)により更新を行う。
②①に基づく取組み結果	無し		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校	意図(対象をどうするのか)	学習環境の向上を図る
②事務事業の概要	小中学校において、購入から年数が経過し、老朽化が進んでいる楽器の更新を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	小中学校の楽器については、購入から年数が経過し全体的に老朽化が進んでおり、学校及び保護者等からは更新(改修)の要望が寄せられている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	中学校5校において、楽器の更新を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	実施校生徒/全生徒			32	%	実施校生徒数/全生徒数
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	0	4,234	金額(千円)	内容	11,804		
	国支出金(千円)		4,234	楽器購入			
	県支出金(千円)						
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	4,234			11,804		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	学校施設における楽器については老朽化が著しいことから、計画的に更新を行っていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	引き続き、計画的に更新していく必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	中学校5校の楽器更新	平成30年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	計画どおり実施した。	4,500	4,500	当初	4,500	H29からの繰越	0
				H29⇒30繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	4,234
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
		令和元年度への繰越額(単位:千円)				0	

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	1	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	富田 浩司			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	学校および委託業者と連携をとり、円滑な学校運営を図る。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	学校および委託業者と連携をとり、円滑な学校運営を図る。
②①に基づく取組み結果	学校施設環境整備員について民間委託業者と調整を行い、市内小中学校12校について委託を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	学校用務員の退職者	意図(対象をどうするのか)	民間委託により人員補充を行う
②事務事業の概要	学校用務員の退職者が出た学校について、新たな人員配置に代わり、民間委託により人員補充を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成15年度より3校の委託を開始し、平成30年度は12校について委託を行った。現在委託を行っていない学校の委託についても、引き続き学校および委託業者と調整を行う。(北部小:令和6年度末、中部小:令和18年度末 退職予定)			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	平成30年度より新たに委託を行った学校施設環境整備員(道野辺小)について、学校及び業者と連携をとり、円滑な学校運営を図ることができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	民間委託とした学校数	11	11	12	校	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	21,914	21,114	金額(千円)	内容	22,299		
国支出金(千円)			17,569	学校施設環境整備員派遣委託			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	21,914	21,114			22,299		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市職員の用務員が配置されている学校と業務内容に差違が生じないように、学校および業者との調整が必要となる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	人件費の削減を図るため、継続的に行う事業であり、今後も民間委託を推進する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	少人数教育推進に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	1	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	新泉 貴久			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	少人数指導の質の向上を図るため、きらり先生研修会のみならず各種研修会でも効果的な実施について指導支援していく。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	少人数指導の質の向上を図るため、市教育委員会指導訪問および要請訪問時に授業研究、協議会を実施し、きらり先生研修会を含め、効果的な実践について指導支援していく。
②①に基づく取組み結果	研修会を2回実施し、少人数指導の効果的な学習形態の在り方の研修や情報交換を行った。指導計画、指導報告を精査し、授業改善に繋げる。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	児童生徒にきめ細やかな学習を行うとともに、学校の活性化を図る。
②事務事業の概要	市内小中学校に1名ずつ少人数教育指導教員(きらり先生)を配置し、きめ細かな学習指導を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	児童生徒、保護者、教職員は少人数指導教員の導入に好感を持っており、議会においても少人数指導教育の推進に好意的である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	少人数指導教員(きらり先生)の配置により、各校チーム・ティーチングや少人数指導が可能となり、児童生徒の学習意欲や基礎的な学力の向上を図る等、きめ細かな指導をすることが出来た。児童生徒、教職員、保護者からもよい評価を得ることができ、学校の活性化を図ることができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	きらり先生配置数	14	14	14	人	業務取得
	ii	きらり先生授業時間数	9,800	9,800	9,800	時間	業務取得
iii							
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	24,525	23,693	金額(千円)		内容		27,274
国支出金(千円)			23,294		少人数指導教員賃		
県支出金(千円)			395		校外学習引率旅費		
市債その他(千円)			4		校外学習引率入場		
一般財源(千円)	24,525	23,693					27,274

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	効果的な少人数指導については日々授業改善を図っていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	学力向上のためにもきめ細やかな指導を行うことは重要であり、効果的な実施がなされているが、さらに指導方法等について向上を図っていく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	特別支援教育推進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	新泉 貴久			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の研修と、心理発達相談員による迅速かつ専門的な指導を行う。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の研修を年4回行う。また、市内全14校で心理発達相談員による巡回相談を実施し、専門的な指導・助言を行う。
②①に基づく取り組み結果	年4回の特別支援教育推進指導教員の研修会にて事例報告やグループ協議、情報交換を積極的に取り入れた。心理発達相談員による巡回相談を市内全14校で複数回実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	特別支援教育が必要と思われる市内児童生徒	意図(対象をどうするのか)	特別支援教育が必要と思われる児童生徒個々のニーズに応じたきめ細かな指導を行う。
②事務事業の概要	市内小中学校に1名ずつ(大規模校2名)ずつ特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)を配置し、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に対してきめ細かな教育支援を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	特別な支援の必要な児童生徒は年々増加傾向にある。インクルーシブ教育システムの構築に向け、多様化する個々のニーズに応じた専門的な指導やきめ細やかな支援体制づくりがさらに求められる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の配置により、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対して個別の支援を行うことができた。一人一人に合わせた指導計画を作成し、学習支援だけでなく必要とする社会性を身に付けるための学習を行うことができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	該当児童生徒数	189	172	148	人	業務取得
	ii	特別支援を受けている児童生徒数の割合 該当児童生徒数/必要児童生徒数	30.6	27.2	42.7	%	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	33,109	31,587	金額(千円)	内容	34,779		
国支出金(千円)			31,183	特別指導教育推進			
県支出金(千円)			402	校外学習引率旅費			
市債その他(千円)			2	校外学習入場料			
一般財源(千円)	33,109	31,587			34,779		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	対象となる児童生徒一人一人の多様なニーズに応じたきめ細やかな支援・指導のための時間の確保が課題である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	特別な支援を要する児童生徒の増加と個々の特性に応じた教育的ニーズの高まりにより、保護者の期待と信頼が大きいため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	研修及び巡回相談の充実	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	事例報告と情報交換会の実施	34,667	34,667	当初	34,667	31,587	H29からの繰越	0
				H29→30繰越			現年分	31,587
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		令和元年度への繰越額(単位:千円)				0		